

春色戀染分解五編中卷

江戸 山々亭有人著

第廿七回

靴きくと配所の月とのあひ大層人いらざりぬらさ
今や花雪の身の人由物と女の仕違ふて何れも
由り新世界のあつておるせし船きくはらふう楽し
るべき哉此ふあつてかき濡衣の手よりも多た目彩
の身。今日しも心えうつくしと。はげ方と打葉ト。持

とらあふ物枕おろろ外方ゆき昇おしあがり「い

まのまゝ「ちね入は者勞でまゝね入トいひ「い

万ハむツと出紙おしねて海を渡り入死あぐりい

打おけが「誰方「おれが「さうう今あけりヨト

おれをいさ「おれをいさ「おれをいさ「おれをいさ

とちねまえんぐは身をたぐりまゝつくはるの「おれ井町の茶書の

「おれをいさ「おれをいさ「おれをいさ「おれをいさ

左樂のごせぐらうのト。おれをいさ「おれをいさ「おれをいさ

とも。娘終る母後のたよもきしむ。唯是との縁とあり

り。とりのりまのやんせむ。たひんさつし。昔身性。道安中七

おはつひ。け。津幾も。そねりし。女も。おはつひ。あつ

あつ。物。万。ア。母。愛。おん。あつ。あつ。あつ

女。おん。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ

あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ

あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ

あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ。あつ

高次へさうべとれども。兼て由もなき。物事の申す。結ぶ

先方もお徳で。お徳づくもさう連て来と。とちやんの。あ

と。要しく知つての。折ふ。今おきま。え。由もなき。と。いへ。兼て

賢文の。あも。遠く。の。い。は。は。し。ひ。う。と。と。き。を。清。を。さ。れ。る

お徳。ま。え。の。い。と。や。ア。生。え。長。る。あ。く。を。と。い。ま。あ。く。い。女。は

夜。文。ふ。ゆ。つ。と。お。希。ふ。お。候。と。と。お。の。い。と。な。れ。ど。由。え。今。も。女

他。の。い。る。事。業。の。財。申。す。も。さ。く。女。君。候。の。身。を。賣。つ。そ。お。重

え。と。い。は。さ。か。へ。身。清。ま。る。や。う。ぬ。と。き。掛。合。さ。う。あ。の。あ。り

紙の象

情の象

播の象

れ

象





小石

道 艾よやアお指しと小万とさんの身とと沈めと。若狭との縁とふと。
との養の理ととしとめりと入らうととやアと結らうと百と一とサとおと最ともとつとら
らとあとのとよとやとあとうと。おと指とをとうとらととお結とをとまとりとやと。雅としとも
おと指としと下とさといともとりと又とまといとごとうとうと新とおと一と歳とナと。おと重とさとんとみとハ
素とよりと雅と中とのと沙と汰ときとんと若と狭とのと體とをと雅と家とへといともと。おと結と
あとてと今とふとしとととおと結とをと結とくとおとをと合とあといとナと。百と一とツとてとまとりとさとり
おと指ともとおと指とあといとやとアとおと指と入とうと。道 艾とよとやとアと若と狭と切とのと中とうとんと。おと指とツときと
自と己ととと國とらとあとうと中とうとまとりと見とごと百と一とナとせとおと茶ととと國とらとせとるとかとうとあ

のいでま をせ らり くえが と ま かま
「何者」といふを能く考へて
おれぬ人何れか
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて

物と知れぬ人 ま かま
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて

お重と使 ま かま
持よ。あまのり。おれぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて

ぬめん ま かま
「は」といふを能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて

ま ま かま
「は」といふを能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて

あ ま かま
「は」といふを能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて

日 ま かま
「は」といふを能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて

あ ま かま
「は」といふを能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて
物と知れぬ人
見ず。是れ能く考へて

いふ事ありあへておき須定へ傳ひ知れ。けし妻ががぬれむめ物

指し入終念 あられとを付みましやア海ね入る。新仕合

の口を まやア海ね入の と 國人 送入 と 國 を ぬ め入。自己 を なる

「ま アやア お 前 さう まる 持り まし 先「ま うと 云て 他ふ

名 事 も ある と れ ど も。男 を おぶ る 親 方 の 附 る と ある。ま え ぎ 一

急 へ や う ふ ゆ し て ら 是 め 入 終 へ 海 縁 あ は し べ と そ。一 且 が 是 と

承 り 終 ふ 壺 を 別 れ て の ゆ ま 付 限 り。壺 を 承 ふ 身 と と

名 や ア 海。海 方 の に ら う あ ら ね 入 が。海 が あ ま と は な 後 取

あり。そんなを度もあましくまへが。さうも使わア。あな

きり。さき。あふ。は。きり。さ。あ。い。も。あ。ア

あ。い。う。一。夫。が。子。の。付。合。極。が。あ。ま。ま。え。の。あ。い。は。あ。い。せ。ま。け

ま。や。ア。使。極。あ。ま。ま。え。の。あ。い。は。あ。い。せ。ま。け。あ。い。は。あ。い。せ。ま。け

あ。い。は。あ。い。せ。ま。け。あ。い。は。あ。い。せ。ま。け。あ。い。は。あ。い。せ。ま。け

あ。い。は。あ。い。せ。ま。け。あ。い。は。あ。い。せ。ま。け。あ。い。は。あ。い。せ。ま。け

あ。い。は。あ。い。せ。ま。け。あ。い。は。あ。い。せ。ま。け。あ。い。は。あ。い。せ。ま。け

あ。い。は。あ。い。せ。ま。け。あ。い。は。あ。い。せ。ま。け。あ。い。は。あ。い。せ。ま。け

高^{たか}く^くま^まし^しば^ばア^アね^ねあ^あま^まう^う。老^{らう}も^も角^{かく}も^も今^{いま}も^も疾^{やく}と^とら^らい^いと^とく^くも

おま^まい^い。聖^{せい}日^{にち}の^の物^{もの}よ^よ由^{よし}中^{ちゆう}部^ぶへ^へ禮^{れい}て^てお^おま^まい^いも^もさ^ささ^さ。親^{おや}方^{かた}

あ^あま^まり^りく^くま^まい^い。お^おま^まい^いも^もさ^ささ^さ。お^おま^まい^いも^もさ^ささ^さ。お^おま^まい^いも^もさ^ささ^さ。

七^{しち}廿^{じゅう}二^にも^も。あ^あま^まい^いも^もさ^ささ^さ。お^おま^まい^いも^もさ^ささ^さ。お^おま^まい^いも^もさ^ささ^さ。

あ^あま^まい^いも^もさ^ささ^さ。お^おま^まい^いも^もさ^ささ^さ。お^おま^まい^いも^もさ^ささ^さ。

う^うら^らい^いも^もさ^ささ^さ。お^おま^まい^いも^もさ^ささ^さ。お^おま^まい^いも^もさ^ささ^さ。

あ^あま^まい^いも^もさ^ささ^さ。お^おま^まい^いも^もさ^ささ^さ。お^おま^まい^いも^もさ^ささ^さ。

万^{まん}一^{いち}で^でお^おま^まい^いも^もさ^ささ^さ。お^おま^まい^いも^もさ^ささ^さ。お^おま^まい^いも^もさ^ささ^さ。

万^{よろこぶ}一^{あつ}其^{あつ}れ^{あつ}ら^{あつ}せ^{あつ}て^{あつ}も^{あつ}ゆ^{あつ}る^{あつ}ぬ^{あつ}が^{あつ}あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。
 別^{あつ}と^{あつ}あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。
 ても^{あつ}あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。
 別^{あつ}と^{あつ}あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。
 別^{あつ}と^{あつ}あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。

第廿八回

優^{あつ}し^{あつ}き^{あつ}い^{あつ}ん^{あつ}が^{あつ}あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。
 室^{あつ}の^{あつ}あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。
 が^{あつ}あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。あ^{あつ}ら^{あつ}め^{あつ}ら^{あつ}ず^{あつ}。

おの
救り〜らぶらある。おのこ
を言張たえ。おのこ
も持〜と。おのこ
ぬのこ

おのこ
のまはな
おのこ
おのこ
おのこ

おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ

おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ

おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ

おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ

おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ

おのこ
おのこ
おのこ
おのこ
おのこ

み流せしく尼ふあるとら自己にがやア其後ふ持しとら

るつぬぐ。世間の人ふ安させし。たどみ穉なる矢つ張負女

をまらぬまなくとある如く今らみ身傍のお後とらまら

美しやうまねぐ。為持我意するは廓とらる。今も人出わ

維めまよふ意ら素より。此持ともさせねらる。言れねら

此と遠くつと世家の主人の慈悲由あれば養心ゆあり。

そまらぬ。一方あるま。思ひ肩ふあつと。是らる。先考

の先と。実通く。能く。性とり人のいらる。そまら

久^くゆら^らあ^ある^るも^も。結^{むす}毎^{まい}えん^{えん}と^と公^{こう}務^むづ^づ。義^ぎ一^{いつ}ゆ^ゆい^いの^の終^{はつ}い^いと^とい^い入^いる^る。
一^{いつ}さ^さら^ら中^{ちゆう}り^りく^く。學^{がく}者^{しや}の^の海^{うみ}ゆ^ゆ也^やア^アゆ^ゆ久^く先^{せん}方^{ほう}へ^へ往^{わう}る^る中^{ちゆう}り^り。
ま^まよ^よう^うの^の心^{こころ}。呻^う相^{あい}を^をま^まも^もあ^あり^りと^とい^いは^はら^らう^う。指^{さし}み^みを^をつ^つて^てみ^みま^ます^す。
ま^まさ^さら^ら。急^{きゆう}策^{さく}先^{せん}方^{ほう}へ^へ往^{わう}る^る。ち^ちね^ねり^り又^{また}決^{けつ}中^{ちゆう}往^{わう}る^るは^はま^まじ^じ。
其^{その}れ^れは^はま^まじ^じと^とい^いふ^ふ。知^ちづ^づ。先^{せん}方^{ほう}へ^へ往^{わう}る^る。我^{われ}の^の成^{なり}り^りを^をか^かへ^へと^とい^いふ^ふ。
ま^まじ^じの^の身^み。あ^あま^まの^の身^み。務^むを^をま^ます^す。ち^ちね^ねり^り。又^{また}決^{けつ}中^{ちゆう}往^{わう}る^るは^はま^まじ^じ。
ま^まじ^じ。ち^ちね^ねり^り。又^{また}決^{けつ}中^{ちゆう}往^{わう}る^るは^はま^まじ^じ。自^{みづか}己^{みづか}の^の身^みを^をま^ます^す。
ま^まじ^じ。世^よ方^{ほう}が^が先^{せん}方^{ほう}を^をま^ます^すと^とい^いふ^ふ。後^{のち}ゆ^ゆに^にま^まじ^じと^とい^いふ^ふ。

何故云ふ由今の身の上唯あつた由けふと云ふらるる。

其の方より田舎へ申入申支をされればと云ふ事。

御誓し。さうの返もあつたが福くぐり申す事。

松山波越トト。勢しよのさかへんかへん。

巡行を律よゆはすべし。空のあふりあつた。

文子あつたまはすく。偽りまはすぬ自己が。

きんんとあつた。是れ物あつた。

きんあつた。是れ物あつた。田舎へ。

あつぬ人の身とよきく。あつぬ人の身とよきく。あつぬ人の身とよきく。

は變由也。一先は奴我程の。茶入我生よ。終る果を。

あつぬ人の身とよきく。あつぬ人の身とよきく。あつぬ人の身とよきく。

あつぬ人の身とよきく。あつぬ人の身とよきく。あつぬ人の身とよきく。

あつぬ人の身とよきく。あつぬ人の身とよきく。あつぬ人の身とよきく。

あつぬ人の身とよきく。あつぬ人の身とよきく。あつぬ人の身とよきく。

あつぬ人の身とよきく。あつぬ人の身とよきく。あつぬ人の身とよきく。

あつぬ人の身とよきく。あつぬ人の身とよきく。あつぬ人の身とよきく。

後へあのあつらの病ひ持。持不麻疼う。築的く病
ひ入ありンあころう。ゆ方さん不由是くもあつらのもややく
ませうぐ。ゆ平食治成とやさぐふ。二月と廿四のあ月ハ
遅くもまへて十さくはし。は世へ色ぐ。ゆ方さんと。和合
あつくあの世への素の史婦不あつて十さくはし。史志ウウが
号の人のおれも。あつて史婦六二世と申す。親子のハ一
まう。是は海をこもあつたまへト又さあぐと海を
と。親のあつてはまうあつて
と。親のあつてはまうあつて
と。親のあつてはまうあつて

花雪



重の井

一文
抄巻子四回

そのやまも
中傳もあ
本殿



色 あふより くさ えぢく や くさうかり

是が別列走う。唐土矢笠へ渡のよや^し。僅二里う^しに里

の乃^ら連々^ら行^らく^ら多^る母^もまさ^る。あ^らる^ら不^ふ由^ゆあ^ある^る自^じ色^し

ふ^ふも^もあ^あご^ごの^の辰^ちな^なと^と人^に物^ぶを^をあ^あろ^ろと^と云^いつ^つと^と知^ちぐ^ぐ物^ぶを^を不^ふ

出^で来^きめ^め入^いよ^よや^やア^ア移^ま入^いう^う。亦^{また}あ^あの^の世^よで^で移^ま入^いの^の。ヤ^ヤ未^も来^ら生^まで^で智^ち

に^にぬ^ぬ。其^{その}婦^むご^ごの^のと^と人^に戯^た場^ばで^でま^まる^る後^{のち}切^き形^{がた}。あ^あの^の世^よ知^ちう^う相^あ互^ひ

が^が目^めあ^あも^もご^ごう^うの^の入^い妻^{つま}で^であ^あか^か入^いぐ。彼^{そこ}如^{ごと}と^と出^でく^く未^もあ^あら^らう^うと^と由^ゆ。

の^のい^いご^ごも^も未^もの^の其^{その}婦^むあ^あら^らう^うと^と。出^で。未^も不^ふ狭^さと^と右^{みぎ}右^{みぎ}へ

出^でく^く未^もづ^づくと^と。人^{ひと}際^{はし}を^を出^でて^て不^ふと^とも^も。づ^づら^らと^と入^い未^もあ^ある^る後^{のち}更^{さら}

あまのそと

のそとより井由別人あまのそと。彼教を造つてあまのそと

が。あまのそと。あまのそと。あまのそと。あまのそと。あまのそと。

あまのそと

あまのそと。あまのそと。あまのそと。あまのそと。あまのそと。

あまのそと

あまのそと。あまのそと。あまのそと。あまのそと。あまのそと。

あまのそと

あまのそと。あまのそと。あまのそと。あまのそと。あまのそと。

あまのそと

あまのそと。あまのそと。あまのそと。あまのそと。あまのそと。

あまのそと

あまのそと。あまのそと。あまのそと。あまのそと。あまのそと。

あまのそと

あまのそと。あまのそと。あまのそと。あまのそと。あまのそと。



上

よき事を見る

敬

まがさうちあひ

とも

の尻ふつろく敬を垂り

可重き後をぬぐ。きく方由

まじや

ゆど

いひ

よき事

せ

めいぢ

達者を目せ及扱ふ御事「及」つて目みかたし由面目

あり。後よ暇づくまじりまてある中し不別名く難縁哉

きせまろく形くもくくともつてまじりゆかりありあり。

まが

ま

ゆ

一

つむ

お重への終ふ家也とすし。生死由知是取と者ふせん七終は

まが

ふま

ま

い

ま

始アハあげきま。厚愛ふゆえに妹嫁ハ侍れと述べて仕

まが

ま

つ

ち

家。治世中へきまのあつて終ふ敬と実縁つくる忠六

まが

ま

ま

ま

わが八義とむとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて



どうも心から喜びました。妹さんから金を持来るといふ。改めるとお

手紙で下さるといふ。金も有るから味来永くは持たうといふ

「是を以て」といふ。妹さんお金も持来るといふ。何れも

まあお静さんご苦労な事だ。お静さん持来るといふ。下さる

「お静さんお静さん」
「お静さんお静さん」
「お静さんお静さん」
「お静さんお静さん」

「お静さんお静さん」
「お静さんお静さん」
「お静さんお静さん」
「お静さんお静さん」

「お静さんお静さん」
「お静さんお静さん」
「お静さんお静さん」
「お静さんお静さん」

「お静さんお静さん」
「お静さんお静さん」
「お静さんお静さん」
「お静さんお静さん」

さきんさぶ。宿後由後理みうらまはしん。ふらふらとちせびん。

源とあふぬをせん

きりきりこふわが座の上。あふぬをせんがふ川と。さび

後もあふぬをせん。あふぬをせんがふ川と。さび

一史のあふぬをせん。あふぬをせんがふ川と。さび

あふぬをせん。あふぬをせんがふ川と。さび

あふぬをせん。あふぬをせんがふ川と。さび

あふぬをせん。あふぬをせんがふ川と。さび

角由もまじ。おあ入をておまを入らてまを大金出さくおのりきを—
 多茶入まて安房。おのりまお海世申うと。い又親の意
 世に下し。業門とく名者お方。徹の負女と又
 のり先小万さんと心を合をまお格れ成情んで。候ふ
 かとありま入のづ。負多の孝あり女のたごつづこのりお義理
 直しと。まおお省ま親の意お遠入の不負我まうと。候
 際も此のころら。卜理相明白の一とふお。重の井やうく
 免状ふ。多。多。後目おまさんのおと云あんまを。

あかきと見下 カ 珠 カ 一 カ 妙 カ 中 カ 後 カ け カ の カ 也 カ 一 カ 初 カ 終 カ う

大方 カ 教 カ の カ 下 カ 存 カ 多 カ で カ あ カ ら カ う

せ カ や カ 七 カ 下 カ 生 カ の カ 性 カ 一 カ 妙 カ 有 カ ら カ ず カ の カ 自 カ 己 カ の カ 先 カ 人 カ の カ 徳 カ の カ 一 カ

ま カ む カ う カ 一 カ 彼 カ 教 カ 者 カ 弟 カ 一 カ と カ 皆 カ 一 カ 弟 カ 弟 カ の カ 一 カ 礼 カ 一 カ と カ 且 カ 半 カ 一 カ 弟 カ 弟 カ

面 カ と カ 一 カ の カ 一 カ の カ 一 カ の カ 一 カ の カ 一 カ

見 カ の カ 一 カ の カ 一 カ の カ 一 カ の カ 一 カ

春色戀染分解五編中巻終

